

オンリーワン徳島行動計画（第二幕）

取組結果評価シート

基本目標7 「"にぎわい" とくしま」の実現

「オンリーワン徳島行動計画(第二幕)」取組結果評価シート

基本目標7 「“にぎわい、とくしま”の実現

【達成度】達成:1, ほぼ達成:2, 未達成:3, 実績値なし:-

【評価】A, B, C

主要事業名・事業概要		●工程（年度別事業計画）				達成度	取組状況 (進捗・達成状況、成果、今後の方針)	部局	委員意見	
番号	数値目標	数値目標（上段:目標、下段:実績）							評価	特記事項
		単位	H19	H20	H21	H22				

7-1 “にぎわい、とくしま体制づくり

1	広域交流の推進 ●本四道路を活用した地域の活性化を図るため、関係府県市と連携しながら国等に対してさらなる割引制度の拡充や恒久的な料金引き下げを要望するなど、利用しやすい通行料金の実現に向けた取り組みを推進します。	推進	→	→	→		<ul style="list-style-type: none"> 平成21年3月から、国において追加の経済対策として、ETC車土日祝日上限1000円割引が実施されたことを受け、5月には鳴門IC及び鳴門北IC出口でのナンバープレート調査を実施し、沖縄県を除く日本全国、平成22年の5月の調査では日本全国のナンバーが確認され、料金割引の効果を確認した。 平成22年4月9日に政府が発表した「新たな料金制度」は地域間格差をさらに拡大するものであり、いち早く国へ見直しを求め、その後も繰り返し、「全国一律の料金制度」と「競合する公共交通機関への支援」を強気に働きかけた。 その結果、平成22年12月24日には国土交通省基本方針に、「地方の求める高速道路料金全国一律制度を視野に入れ」及び「地方と調整する」との文言が盛り込まれ、平成23年2月16日に国から「平成23年度の一年間に限り、地方からの意見を踏まえ、全国一律制度を視野に入れつつ、平日の乗継料金2,500円（本四500円+NEXCO2,000円）」の新料金が示された。 しかし、平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、新料金の4月実施の延期が、3月23日国土交通省より発表された。 	県土	B		
	●高速道路新料金を最大限活用し、徳島の経済の活性化やPRを行うため、「高速道路新料金活用戦略」に基づき、「県外からの観光誘客対策」及び「物流活性化による産業振興対策」を推進します。	推進	→	→	→		<p>普通車「土日祝日上限1,000円」等の料金割引制度の発表後、全国に先駆けてプロジェクトチームを発足させ、「観光入込客数」と「大鳴門橋通行台数」の倍増を挑戦目標に掲げた「高速道路新料金活用戦略」を取りまとめ、部局間連携により、当戦略の積極的な推進を図った。</p> <p>その結果、平成21年のGWには「大鳴門橋通行台数」が昭和60年の開通以来、「過去最高の48万台超、対前年比31.9%増」、「主要観光施設への入込客数」も「過去5年間で最高の35万人超、対前年比9.5%増」を記録した。</p> <p>さらに、平成22年においても、GWの大鳴門橋通行台数が過去最高となった前年並みを維持（対前年比1.4%減）、主要観光施設への入込客数も微増（対前年比0.1%増）するなど、一定の成果が現れている。</p>	企画 県土 商工	B	大鳴門橋の通行台数、県外からの入り込み客数は、平成19年から倍増とチャレンジ精神に満ちた目標を掲げていたが、平成20年9月に起きたいわゆるリーマンショックにより日本経済が低迷した影響等で、高く掲げていた目標に大きく及ばなかったことはやむを得ないものと考えられる。主要事業については、普通車の土日祝日上限1,000円を最大限活用し、庁内にプロジェクトチームを発足させて精力的に県外客の誘客に努力されてきたことは一定の評価ができるので、B評価とした。	
528	大鳴門橋の通行台数 <H19>702万台 → <H22>1,400万台 (<H22>平成19年度から倍増)	万台	¢ 702	¢ 703		1,400(H19から倍増) 860	3	「高速道路新料金活用戦略」に基づく諸施策推進の結果、H21のGWに開通以来過去最高の通行台数となり、H22のGWにもほぼ同様の通行台数を記録した。	企画	C	平成19年～22年にかけて22.5%増加したが、目標には届いていないのでC評価とした。
529	県外からの観光入り込み客数 <H19>727万人 → <H22>1,450万人 (<H22>平成19年から倍増)	万人	¢ 727	¢ 739		1,450(H19から倍増) 819	3	とくしまの観光ブランドを効果的に発信することで観光誘客促進に一層取り組んだ。	商工	C	平成19年～22年にかけて12.7%増加したが、目標には届いていないのでC評価とした。 (附帯意見) 設定された観光入込客数の目標は平成19年と比較し2倍となっている。高い目標があればそれに適した手段、手法があるのではないかと。目標に届かなかった要因を考えていただき、また、様々な経済効果及び県内インフラ整備等の計画があったと推測されるが、これらの分析を実施していただきたい。
	●四国4県で本四道路の利用促進策を取りまとめるとともに、その後、関係県及び関係機関による「本四道路利用促進会議」を開催するなど、関係県が一丸となって本四道路の利用促進に取り組めます。	推進	→	→	→			4県による「本四道路利用促進会議」を設け本四道路利用促進計画」を策定した。	県土	A	

主要事業名・事業概要		●工程（年度別事業計画）				取組状況 (進捗・達成状況、成果、今後の方針)	部局	委員意見		
番号	数値目標	数値目標（上段:目標、下段:実績）						達成度	評価	特記事項
		単位	H19	H20	H21					
	●近畿圏において、新聞紙面や府県広報紙で本四道路の料金割引制度や本県の魅力をPRするほか、大鳴門橋や明石海峡大橋等を舞台に、兵庫県と共同でイベントを実施するなど、積極的に情報発信を行い、本四道路の利用促進を図ります。 また、徳島自動車道についても、イベントの実施等により、利用促進を図ります。			推進	→	→	企画 県土	B	各種イベントについては、精力的に取り組み、相応の成果は上げているが、大鳴門橋の利用者数等は、目標の「倍増」には結びついていないので、B評価とした。	
530	「大鳴門橋開通25周年記念イベント」の参加者数 <H22>10,000人	人	◎	◎	◎	10,000	企画	A	(目標を達成しているためA評価とした)	
	●徳島を発着する航空路線の利便性向上や官民が連携した利用促進策を展開するとともに、2,500m滑走路を整備した「徳島阿波おどり空港」の開港を契機として、県外からの誘客を促進するなど、空港利用を推進します。		推進	→	→	→	県土	A	国内線の旅客数は、平成17年度以降減少傾向にあったが、22年度には739,096人と増加に転じ、また、国際チャーター便の就航についても、19年度の4件1,139人から、22年度には6件1,406人へと増加に転じており、A評価とした。	
	●個性豊かで活力ある地域づくりを支援するため、市町村と連携しながら美しい景観と産直市が楽しめるなど、地域の交流拠点や防災拠点となる「道の駅」の整備を県下全域に展開します。		推進	→	→	→	県土	A		
526	「道の駅」新規選定箇所数 <H17>- → <H22>10箇所	箇所	1	2	2	10	県土	A	(目標を達成しているためA評価とした)	
	●徳島小松島港本港地区において、旧フェリーターミナルビル等を交流拠点施設として活用するなど、にぎわいを復活させるため、地域と協働して周辺整備を推進します。		推進	→	→	→	県土	A	徳島小松島港本港地区では、平成17年度から港湾環境整備事業を実施している。これまで、地域住民の方々と協働して計画策定等を行い、平成20年12月に完成したボードデッキを張り巡らせた交流広場の整備をはじめ、平成22年3月には隣接する「しおかぜ公園」との間をつなぐゾーンの整備が完了し、イベントや散策路として活用されている。平成22年度は、引き続き、国やNPOと連携しながら、「みなとまち」のにぎわい復活に向け、交流広場から海へと至る海上広場の整備を行った。	

主要事業名・事業概要		●工程（年度別事業計画）				取組状況 (進捗・達成状況、成果、今後の方針)	部局	委員意見		
番号	数値目標	数値目標（上段：目標、下段：実績）						達成度	評価	特記事項
		単位	H19	H20	H21					
531	徳島小松島港本港地区におけるボードデッキ等の整備 〈H17〉整備中 → 〈H22〉一部供用					一部供用	1	県土	A (目標を達成しているためA評価とした)	
		整備中	整備中	整備中	整備中	一部供用				
	●徳島小松島港万代中央地区において、既存倉庫群を活用した「憩いの場」や「にぎわい空間」の創出により、地域振興・活性化を図ります。					推進		県土	A	
	●「新たな観光資源」として、東環状大橋（仮称）の活用を図ります。					推進		県土	B	
	●すべての人が快適で効率的な都市形成を推進するため、徳島東部都市計画区域において、都市計画見直しの基礎となる調査を実施します。	基礎調査実施	分析調査実施	都市計画見直し着手	都市計画見直し			県土	B	
532	徳島東部都市計画区域の都市計画見直し 〈H17〉— → 〈H22〉見直し					見直し	2	県土	B (目標をほぼ達成しているためB評価とした)	
		基礎調査	分析調査	見直し着手	見直し作業中	見直し				
	●都市中心部の活性化を図るため、先導的な中心市街地の再開発事業等を支援します。	地区採択都計決定	推進	→	→			県土	C	
533	新町西地区市街地再開発事業の進捗率 〈H17〉— → 〈H22〉40%	%				40	-	県土	C (目標が未達成なのでC評価とした)	
			-	-	-	-				
	2 「e-とくしま推進プラン」の推進 ●「e-とくしま推進プラン」について、「e-とくしま推進会議」において適切に進行管理するとともに、「(財)e-とくしま推進財団」において具体的な課題に取り組むなど、官民一体となって着実にプランを推進します。	推進	→	→	→			県民	A	
	3 観光立県とくしまづくり ●「もてなしの阿波とくしま観光基本条例」や「徳島県観光振興基本計画」に基づき、官民一体となって、観光振興の取り組みを推進します。			推進	→			商工	A	

主要事業名・事業概要		●工程（年度別事業計画）				取組状況 (進捗・達成状況、成果、今後の方針)	部局	委員意見			
番号	数値目標	数値目標（上段:目標、下段:実績）						達成度	評価	特記事項	
		単位	H19	H20	H21						H22
562	「もてなしの阿波とくしま観光基本条例」を制定・推進 〈H21〉制定・推進		☑	☑	制定・推進		1	平成21年6月に条例を制定し、官民一体となって観光の振興や交流の促進に取り組んだ。	商工	A	(目標を達成しているのでA評価とした)
			—	—	制定・推進	推進					
534	「徳島県観光振興基本計画」の策定・推進 〈H21〉策定 → 〈H22〉推進		☑	☑	☑	推進	1	県内における観光振興の機運を高めるため、官民一体となって「とくしま祭り」を開催するなど、観光誘客に取り組んだ。	商工	A	(目標を達成しているのでA評価とした)
			—	—	策定	推進					
●徳島ならではの魅力を「観光とくしまブランド」として再構築し、情報発信を行うとともに、地域の魅力を活かした観光地づくりや、地域資源を活用した体験型観光の推進などに官民一体となって取り組むことで、県内外の交流が活発に行われる「観光立県とくしま」の実現を目指します。			推進	→	→	→		・とくしまの観光ブランドを効果的に発信するとともに、積極的な広告宣伝を行い、広く国内外に向け、徳島の知名度向上とイメージアップを図った。また、地域の魅力を活かした観光地づくりや、地域資源を活用した体験型観光を推進し、県内外の交流の促進を図った。 ○観光入り込み客数 〈H19〉1,357万人 〈H20〉1,370万人 〈H21〉1,420万人 〈H22〉1,411万人	商工	B	数値目標は未達成であるが、インターネット、携帯サイトの活用など情報発信の強化を図り、体験型観光の推進に取り組んでいるのでB評価とした。
535	観光入り込み客数 〈H17〉1,245万人 → 〈H22〉2,150万人	万人	〈H22〉 1,500	〈H22〉 1,500	〈H22〉 2,150	〈H22〉 2,150	3	とくしまの観光ブランドを効果的に発信することで観光誘客促進に一層取り組んだ。	商工	C	(目標が未達成なのでC評価とした)
			1,357	1,370	1,420	1,411					
●高速道路新料金制度導入を最大限に活用するため、県外からの観光入り込み客数の倍増を挑戦目標として、マイカーを利用して来県する観光客に対する新たな観光周遊ルートや宿泊滞在型観光プランの提案など、観光誘客対策を推進します。				推進	→	→		・多くの観光客に選ばれる徳島を目指して、マスメディア等を活用するとともに、県外において、食や地域の特産品等も含めた徳島の魅力について積極的に情報発信を行った。 ○県外からの観光入り込み客数 〈H19〉727万人 〈H20〉739万人 〈H21〉813万人 〈H22〉819万人	商工	B	数値目標は未達成であるが、観光プランづくりや本県の食材、県産品を活かした観光メニューづくりに取り組んでおり、B評価とした。
536	県外からの観光入り込み客数【再掲】 〈H19〉727万人 → 〈H22〉1,450万人	万人	☑	☑		1,450(H19から倍増)	3	とくしまの観光ブランドを効果的に発信することで観光誘客促進に一層取り組んだ。	商工	C	(目標が未達成なのでC評価とした)
			727	739	813	819					
4	国際交流の推進 ●ドイツ・ニーダーザクセン州との友好提携を視野に入れ、文化、経済、スポーツ、教育などの各分野における積極的な交流と相互協力を推進し、交流人口の増加や地域の振興・活性化を図ります。		推進	→	→	友好提携		・平成19年9月13日に「日本国徳島県とドイツ連邦共和国ニーダーザクセン州との交流に関する共同宣言」調印し、教育・経済・文化・スポーツなどの幅広い分野で交流を行い、地域の活性化や国際化を推進した。	商工	A	

主要事業名・事業概要		●工程（年度別事業計画）				達成度	取組状況 (進捗・達成状況、成果、今後の方針)	部局	委員意見	
番号	数値目標	数値目標（上段：目標、下段：実績）							評価	特記事項
		単位	H19	H20	H21					
5	文化立県とくしまの体制づくり ●「徳島県文化振興基本方針」の推進を図ります。	推進	→	→	→		・「一人ひとりの感性を磨く」、「徳島ならではの文化を創る」、「文化の力を活用する」の3つの柱に基づき、次のとおり各種文化振興事業を実施した。 ・平成19年度は第22回国文祭とくしま2007（通称：おどる国文祭）を開催し、「阿波おどり」「阿波人形浄瑠璃」「阿波藍」「第九」を4大モチーフとして掲げ、徳島らしい個性豊かな文化の祭典とした。また、この成果を発展させ、20年度には、「アジア初演第九90周年記念コンサート」を、21年度には「阿波人形浄瑠璃月間～ジョーリ100公演～」を、22年度には「阿波藍×未来形プロジェクト」を開催した。	県民	A	
	●国民文化祭で盛り上がった機運を継続させ、官民が連携して徳島らしい個性豊かな「あわ文化」を創造していく仕組みづくりをコーディネートします。	推進	→	→	→		・行政だけでなく民間企業や県民、NPO、文化団体等が連携して徳島らしい個性豊かな「あわ文化」を創造していく仕組みづくりを進めるため、民間企業や県民からの協賛を得ながら、デザイナーやコピーライター、その他文化関係者が徳島の文化資源を取材しPRしていく体制づくりの準備を進めた。 ・県民の方々が自ら企画し、独自に実施する文化イベント「もっとみんなで参加事業」の実施や、藍染研究会、阿波人形浄瑠璃振興会、阿波農村舞台の会、徳島交響楽団等と連携した「あわ文化」の創造・発信を行うことができた。	県民	A	
6	スポーツの振興 ●「徳島県スポーツ振興基本計画」の着実な推進を図ります。また、スポーツに関する事務を再編成し、新たな組織体制のもと、県民をはじめ、各市町村、各スポーツ関係団体等の理解と協力を得て、「生涯スポーツ」、「競技スポーツ」の振興、学校における体育・スポーツの充実を図るとともに、スポーツを活かした「にぎわいづくり」や「健康づくり」など各種施策とのより一層の連携強化を図ります。	推進	→	→	→		・徳島県スポーツ振興基本計画に掲げた「生涯スポーツ」「競技スポーツ」「学校における体育・スポーツ」の3つの分野の振興を図るための施策の着実な推進を図った。 学校における体育・スポーツの充実については、「体育・保健体育」の授業の充実を図るとともに、「体力アップ100日作戦！」や「子どもの体力向上指導者養成研修事業」等を通じて、子どもの体力の向上に取り組んだ。また、学校体育や運動部活動支援のために、地域のスポーツ人材を外部指導者として小・中・高等学校に派遣し、その活性化を促進した。	県民教育	B	国体における本県の成績（全国最下位）や小学5年生男子の体力テストの成績（全国最下位）から、十分な成果は出ていないが、徳島ヴォルティスや徳島インディゴソックスなどの活躍により、相応の「にぎわいづくり」につながっているため、B評価とした。
	●「徳島県スポーツ振興審議会」を中心として、スポーツ振興のために必要な調査・審議を行い、平成23年度からの「徳島県スポーツ振興基本計画」を策定し、本県のスポーツのあるべき姿を創造します。	推進	→	→	策定		・「オープンとくしまe-モニター」アンケートによる「県民のスポーツ意識等に関する調査」を行うとともに、新たな「徳島県スポーツ振興基本計画」について、スポーツ振興審議会において審議、検討した。	県民	B	
537	徳島県スポーツ振興基本計画の策定 <H22>策定	☺	☺	☺	策定	2	・スポーツ振興審議会において、スポーツ振興のために必要な調査・審議を行うとともに、新たな「徳島県スポーツ振興基本計画」を審議、検討した。	県民	B	（目標をほぼ達成しているためB評価とした）
		—	—	—	検討					
	●「とくしまスポーツ憲章」を制定し、全国大会等で優秀な成績をおさめた個人・団体を表彰・褒賞するなど、県民スポーツの振興を図ります。	制定推進	→	→	→		・県民の誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しみ、スポーツを通じて県民の元気を創造する「とくしまスポーツ王国づくり」の実現のため制定した『とくしまスポーツ憲章』に則り、県民スポーツの振興を図った。	県民	B	数値目標（「とくしまスポーツ憲章」の制定目標19年度制定 実績19年度制定）は達成しているものの、国体等の成績を考慮し、B評価とした。
527	「とくしまスポーツ憲章」の制定 <H19>制定	制定				1	「とくしまスポーツ王国づくり」の実現を目指して制定した「とくしまスポーツ憲章」に則り、県民スポーツの振興を図った。	県民	A	（目標を達成しているためA評価とした）
		制定	推進	推進	推進					

主要事業名・事業概要		●工程（年度別事業計画）				取組状況 (進捗・達成状況、成果、今後の方針)	部局	委員意見		
番号	数値目標	数値目標（上段:目標、下段:実績）						達成度	評価	特記事項
		単位	H19	H20	H21					

7-2 交流ひろがるとくしまづくり

1 広域交通ネットワークの整備 ●「徳島空港新時代」の広域交通ネットワークの形成に向けて、徳島飛行場の滑走路拡張（2,500m化）を促進します。			促進	→	完成	供用		県土	A	滑走路が拡張された徳島阿波おどり空港が供用され、東京便が平成22年10月から従来のJALに加えANAが参入してダブルトラック化が実現し、競争の原理により県民にとって利便性が向上した。よってA評価とした。
538	徳島飛行場の拡張 <H17>整備中 → <H22>供用		整備中	整備中	完成	供用	1	県土	A	目標どおり供用が開始されているのでA評価とした。
540	「徳島阿波おどり空港」ターミナルビルの整備 <H17>- → <H22>供用		☺	☺		供用	1	県土	A	平成22年4月8日供用開始。 目標どおり供用が開始されているのでA評価とした。
●徳島の海の玄関として、徳島小松島港の整備を推進します。			推進	→	→	→		県土	B	・徳島小松島港沖洲（外）地区では、水深8.5m耐震強化岸壁の整備に向けて、平成22年度は、公有水面埋立免許願書を出願した。 ・赤石地区では、水深7.5m岸壁及び水深5.5m岸壁の供用による内物流機能の充実・強化を図るため、背後のふ頭用地において道路整備を進めた。 また、本県の「国際貿易の振興」や「地域経済の活性化」を図るため、国際海上コンテナターミナルの整備を行った。平成23年3月12日供用開始。 ○徳島小松島港赤石地区における貨物取扱量 <H21>63万トン（実績は翌々年度6月頃に判明予定）
541	徳島小松島港沖洲（外）地区の整備 <H17>- → <H22>整備中		-	港湾計画変更、調査	調査・設計	整備中	1	県土	A	工事着手に向けて、公有水面埋立免許願書を出願。 （目標を達成しているためA評価とした）
542	徳島小松島港赤石地区 国際海上コンテナターミナルの整備 <H21>着手 → <H22>整備中		☺	☺	☺	整備中	1	県土	A	平成22年度末に供用開始。 （目標を達成しているためA評価とした）
543	徳島小松島港赤石地区における貨物取扱量 <H17>120万トン → <H22>200万トン	万トン	121	104	63	-		県土	C	内貿ふ頭の早期供用に向けてふ頭用地内の道路整備を推進。貨物取扱量の実績は、翌々年度6月頃に確定する見込み。 （目標が未達成なのでC評価とした）

主要事業名・事業概要		●工程（年度別事業計画）					取組状況 （進捗・達成状況、成果、今後の方針）	部局	委員意見	
番号	数値目標	数値目標（上段：目標、下段：実績）				達成度			評価	特記事項
		単位	H19	H20	H21					
●近畿及び四国内の交流基盤となる四国横断自動車道（鳴門～阿南間）の整備及び徳島自動車道の追越車線等の付加車線設置を促進します。			促進	→	→	→	1	県土	B	数値目標は、四国横断自動車道の徳島～徳島東間が少し遅れているのを除き、鳴門～徳島間、徳島東～阿南間の9整備はいずれも達成しており、主要事業についてはB評価とした。
544	四国横断自動車道（鳴門～徳島間）の整備 用地取得率 ＜H17＞用地取得率14% →＜H22＞用地取得率100% ・工事全面展開中（＜H26＞供用目標）	%	95	98	99	100	1	県土	A	（目標を達成しているためA評価とした）
545	四国横断自動車道（徳島～徳島東間）の整備 ＜H17＞調査中 → ＜H22＞設計協議中 （＜H31＞供用目標）		調査中	調査中	調査中	調査中	2	県土	B	（目標をほぼ達成しているためB評価とした）
546	四国横断自動車道（徳島東～阿南間）の整備 ＜H17＞調査中 → ＜H22＞工事施工中		設計協議	設計協議・用地交渉・一部工事	設計協議・用地交渉・一部工事	設計協議・用地交渉・一部工事	1	県土	A	（目標を達成しているためA評価とした）
●高規格幹線道路と一体となって高速交通ネットワークを形成する地域高規格道路について、徳島環状道路、阿南安芸自動車道の整備を促進します。			促進	→	→	→	3	県土	B	数値目標の地域高規格道路徳島環状道路の供用率、目標60%、実績46%を除き、地域高規格道路阿南安芸自動車道の日和佐道路延長の供用率、桑野道路の整備、福井道路の整備とも達成しているため、主要事業については、B評価とした。
547	地域高規格道路徳島環状道路（延長22km）の供用率 ＜H17＞28% → ＜H22＞60%	%	37	39	39	46	3	県土	C	（目標が未達成なのでC評価とした）

主要事業名・事業概要		●工程（年度別事業計画）				取組状況 (進捗・達成状況、成果、今後の方針)	部局	委員意見			
番号	数値目標	数値目標（上段：目標、下段：実績）						達成度	評価	特記事項	
		単位	H19	H20	H21						H22
548	地域高規格道路阿南安芸自動車道（日和佐道路延長9.3km）の供用率 〈H15〉—（工事着手 5.9km） → 〈H22〉67% （一部供用6.2km、残区間工事展開）	%				67	1	平成19年5月12日に、由岐IC～美波町北河内間6.2kmが部分供用。平成23年度の全線供用に向け、工事促進中。	県土	A	（目標を達成しているためA評価とした）
549	地域高規格道路阿南安芸自動車道（桑野道路）の整備 〈H17〉未実施 → 〈H22〉都市計画決定		〈H22〉調査設計中	〈H22〉調査設計中	〈H22〉調査設計中	〈H22〉都市計画決定	1	都市計画決定の手続きを進めた。（H22.4.30都市計画決定）	県土	A	（目標を達成しているためA評価とした）
550	地域高規格道路阿南安芸自動車道（福井道路）の整備 〈H17〉未実施 → 〈H22〉都市計画決定		〈H22〉調査設計中	〈H22〉調査設計中	〈H22〉調査設計中	〈H22〉都市計画決定	1	都市計画決定の手続きを進めた。（H22.4.30都市計画決定）	県土	A	（目標を達成しているためA評価とした）
●交流の基盤を支える一般国道32号、一般国道55号バイパスなどの主要幹線道路の整備を促進します。			促進	→	→	→		<ul style="list-style-type: none"> 一般国道32号において、猪ノ鼻道路では州津地区の工事促進、改築防災大歩危工区では用地交渉を促進し、また、一般国道55号において、阿南道路では阿南市津乃峰町～橋町間の設計協議・用地交渉・工事を促進、牟岐バイパスでは設計協議を推進した。 ○一般国道32号猪ノ鼻道路（延長8.4km）の整備〈H22〉工事施工中 ○一般国道55号阿南道路（延長21km）の供用率〈H19〉74% ○一般国道55号牟岐バイパス（延長2.4km）の整備〈H22〉設計協議・用地調査の推進 	県土	B	（牟岐バイパスの目標である平成22年度の工事着工は未達成だが、猪ノ鼻道路、阿南道路については目標どおり進捗をしており、B評価とした。）
551	一般国道32号猪ノ鼻道路（延長8.4km）の整備 〈H17〉調査中 → 〈H22〉工事施工中		用地交渉・工事に着手	用地交渉・工事を促進	用地交渉・工事を促進	工事施工中	1	用地交渉・工事を促進。用地取得も概ね完了し、工事を促進。	県土	A	（目標を達成しているためA評価とした）
552	一般国道55号阿南道路（延長21km）の供用率 〈H19〉バイパス区間（阿南市津乃峰町までの15km）の供用	%	74				1	平成19年12月1日に、津乃峰町長浜～東分間0.5kmが部分供用し、目標を達成。	県土	A	（目標を達成しているためA評価とした）
553	一般国道55号牟岐バイパス（延長2.4km）の整備 〈H17〉調査中 → 〈H22〉工事施工中		調査中	設計協議に着手	設計協議	設計協議用地調査	3	平成20年より、5地区に分け、設計説明会を開催し、設計協議に着手（H22.12：3地区／5地区完了）。設計協議完了箇所より、用地調査実施。ただし、工事には至っていない。	県土	C	（目標が未達成のためC評価とした）

主要事業名・事業概要		●工程（年度別事業計画）				取組状況 (進捗・達成状況、成果、今後の方針)	部局	委員意見					
番号	数値目標	数値目標（上段：目標、下段：実績）						達成度	評価	特記事項			
		単位	H19	H20	H21						H22		
●陸海空の広域交通ネットワーク形成に向け、空港・港湾と高規格幹線道路などを連結する道路及び施設の整備を推進します。			推進	→	→	→				<ul style="list-style-type: none"> 平成21年度末に工事が完成し、平成22年4月2日に供用開始。 ○県道徳島空港線（徳島空港～一般国道28号）の整備<H21>暫定供用 ・マリニピア沖洲へのアクセス道路である元町沖洲線については、H19年度に完成した。 ○元町沖洲線（延長2.7km）の整備<H19>4車線化完成 ・マリニピア沖洲Ⅱ期事業については、平成21年度に、マリニピア沖洲への3本目のアクセス道路を供用した。なお、北側緑地についても、平成21年度に供用した。また、小型船だまりは平成23年度の部分供用を目指す。 ・徳島小松島港津田地区においては、埋立工事着手に向けて、平成22年度に公有水面埋立免許願書を出願した。 	県土	A	
554	県道徳島空港線（徳島空港～一般国道28号）の整備 <H17>整備中 → <H21>暫定供用				暫定供用		1	平成21年度末に工事が完成し、平成22年4月2日に供用開始。	県土	A	(目標を達成しているためA評価とした)		
			整備中	整備中	暫定供用	暫定供用							
555	元町沖洲線（延長2.7km）の整備 <H19>元町沖洲線（延長2.7km）の4車線化完成		4車線化完成				1	4車線化完成し、供用している。	県土	A	(目標を達成しているためA評価とした)		
			4車線化完成	—	—	—							
556	マリニピア沖洲Ⅱ期事業（土地造成） <H17>事業中 → <H22>概成					概成	2	北側緑地は平成21年度に完了。南側水域は平成22年度に完了。引き続き、道路用地等の整備を推進する。	県土	B	(目標をほぼ達成しているためB評価とした)		
			事業中	事業中	事業中	概成							
557	徳島小松島港津田地区整備事業（土地造成） <H20>調査中 → <H22>整備中		㊦	㊦		整備中	1	工事着手に向けて、公有水面埋立免許願書を出願。	県土	A	(目標を達成しているためA評価とした)		
			—	調査中	調査・設計	整備中							
2 都市部における渋滞対策の推進 ●都市部の慢性的な渋滞を解消するため、徳島市中心部とその周辺地域における放射環状道路の整備を推進します。			推進	→	→	→		<ul style="list-style-type: none"> ・放射道路は、東吉野町北沖洲線1.3kmが部分供用した。（暫定供用含む） ○放射道路（延長約23.2km）の供用率（暫定含む）<H22>86% ・外環状道路は、平成19年度に徳島環状線の国府工区1.5km（一般部）が供用し、平成22年度には、徳島南環状道路の川北トンネル（仮称）が貫通するなど、各工区の整備を促進した。 ○外環状道路（延長約35.0km）の供用率<H22>58% 	県土	B	南環状道路の大木～大野は平成22年度に供用できなかったものの、19年度には田宮街道や元町沖洲線の完成・供用、22年度には川内工区の部分供用など、放射環状道路の整備が進んでおり、B評価とした。		
558	放射道路（延長約23.2km）の供用率（暫定含む） <H17>68%（供用延長15.8km） →<H22>86%（供用延長19.9km） <H19>常三島中島田線（田宮街道3.8km）の4車線化完成 <H19>元町沖洲線（延長2.7km）の4車線化完成（再掲）	%	<H22>80	<H22>80	<H22>80	<H22>86	1	東吉野北沖洲線1.3kmが部分供用した。（暫定供用含む）	県土	A	(目標を達成しているためA評価とした)		
			77	79.9	85.6	86							

主要事業名・事業概要		●工程（年度別事業計画）				取組状況 (進捗・達成状況、成果、今後の方針)	部局	委員意見		
番号	数値目標	数値目標（上段:目標、下段:実績）						達成度	評価	特記事項
		単位	H19	H20	H21					
539	外環状道路（延長約35.0km）の供用率（暫定含む） ＜H15＞44%（供用延長15.4km） →＜H22＞66%（供用延長23.2km） ＜H19＞徳島環状線（国府工区1.5km）の暫定供用	%				66	3	南環状道路8工区(3.3km)は一部の用地取得困難のため予定の平成22年度供用できなかった。	県土 C 目標が未達成なのでC評価とした 供用率は平成15年度に既に44%あったため、これを控除すると63.6%となる	
			48	49	49	58				
●渋滞の著しい交差点の緩和・解消に努めます。			推進	→	→	→	1	・本町交差点（直轄事業）等渋滞の著しい交差点の渋滞対策工事を推進した。 ○主要幹線道路等における渋滞交差点の箇所数＜H22＞6箇所	県土 A	
559	主要幹線道路等における渋滞交差点の箇所数 ＜H17＞23箇所 → ＜H22＞6箇所	箇所				6				1
	●踏切の除去により、道路交通の円滑化が図られる鉄道高架事業を、徳島市が実施するまちづくりと一体となって推進します。		推進	→	→	→	1	・鉄道高架事業の事業化に向け、車両基地の候補地を絞り込むなど、都市計画決定等に必要な諸調査を実施した。	県土 B	
3	公共交通機関の利用促進 ●パークアンドライド等の推進による公共交通機関の利用促進や時差通勤の導入など交通需要マネジメント施策を推進します。		推進	→	→	→				1
	●路線バス、鉄道等地域の生活路線を運行する事業者に対して支援を行い公共交通網を維持・確保します。		推進	→	→	→	1	・公共交通事業者に対して各種支援を行い、地域の生活交通網の維持・確保に努めた。	県土 B	
										1

7-3 観光立県とくしまづくり

1	「観光とくしまブランド」の確立 ●「もてなしの阿波とくしま観光基本条例」や「徳島県観光振興基本計画」に基づき、官民一体となって、観光振興の取り組みを推進します。（再掲）							推進	→	・平成21年6月に「もてなしの阿波とくしま観光基本条例」を制定し、官民一体となって観光の振興や交流の促進を図った。 また、平成22年3月に「徳島県観光振興基本計画」を策定した。 ○「もてなしの阿波とくしま観光基本条例」を制定・推進＜H21＞制定・推進＜H22＞推進	商工	A	(附帯意見) 県内の小・中学校の遠足は極力県内にいけるようなローテーションを組んでいただくと観光関係の活性化に繋がるのではと思う。
	●多くの観光客に選ばれる徳島を目指して、「庶民遺産」「自然一番」というブランドイメージを広くPRしていくとともに、マスメディアや県人会のネットワーク等を活用した広告宣伝を実施することにより、広く国内外に向けたイメージアップを図ります。		推進	→	→	→	1	・多くの観光客に選ばれる徳島を目指して、「庶民遺産」「自然一番」というブランドイメージを広くPRしていくとともに、マスメディア等を活用した広告宣伝を実施した。 ○観光入り込み客数 ＜H19＞1,357万人 ＜H20＞1,370万人 ＜H21＞1,420万人 ＜H22＞1,411万人 ○「徳島観光ファンクラブ」会員数（累計）＜H22＞5,650人	商工	B	(附帯意見) 観光施設における身体障害者用トイレの整備をしていただくと、御年輩の方も訪れやすく、観光関係の活性化に繋がるのではと思う。		

主要事業名・事業概要		●工程（年度別事業計画）					取組状況 (進捗・達成状況、成果、今後の方針)	部局	委員意見	
番号	数値目標	数値目標（上段:目標、下段:実績）				達成度			評価	特記事項
		単位	H19	H20	H21					
563	観光入り込み客数【再掲】 〈H17〉1,245万人 → 〈H22〉2,150万人	万人	〈H22〉 1,500	〈H22〉 1,500	〈H22〉 2,150	〈H22〉 2,150	3	とくしまの観光ブランドを効果的に発信することで観光誘客促進に一層取り組んだ。	商工	C (目標が未達成なのでC評価とした)
564	「徳島観光ファンクラブ」会員数（累計） 〈H17〉3,418人 → 〈H22〉6,000人	人				6,000	2	会員数の増加を図るとともに、観光情報サイト「阿波ナビ」に、クチコミ情報のサブサイトを開設するなど、徳島の魅力と旬の情報を多くの人々に発信した。	商工	B (目標をほぼ達成しているのでB評価とした)
565	「上海万博」への出展 〈H22〉出展		☺	☺	☺	出展	1	上海万博会場内の「関西ギャラリー」で、「徳島ウィーク」を開催し、観光PR、LED応用製品・工芸品の展示し、約3万人の来場者に徳島のPRを行った。	商工	A (目標を達成しているのでA評価とした)
	●「東洋のハリウッド」を目指して、公的関与のフィルムコミッションを中心に、県内を舞台にしたテレビ、映画、CM等のロケ撮影の支援・誘致を推進します。		推進	→	→	→		・「東洋のハリウッド」を目指し、県内を舞台とした連続テレビ小説「ウェルかめ」をはじめ、映画、テレビ、CM等のロケ撮影を支援・誘致した。 ○映画、ドラマ、CM等のロケ撮影支援件数（累計）〈H22〉200件	商工	A
560	映画、ドラマ、CM等のロケ撮影支援件数（累計） 〈H17〉88件 → 〈H22〉200件	件				200	1	的確な情報提供とアテンドにより、県内ロケの支援・誘致を図り、支援件数は200件となった。	商工	A (目標を達成しているのでA評価とした)
	2 「おもてなしの国とくしま」づくりの推進 ●個人旅行へと変化している観光ニーズに対応するため、鉄道や路線バス、タクシー等を活用した着地型情報の充実を図ることにより、観光客の誘致促進につなげます。また、「東洋のベニス・水の都とくしま」など徳島ならではの観光資源を活用した取り組みを推進します。		推進	→	→	→		・観光客誘致及び受け入れ態勢の強化を推進することにより、観光客の周遊性・滞留性を高め、一層の観光振興を図った。また、「おもてなしの心」や自然に恵まれた徳島ならではの観光資源を活用した取り組みを推進した。	商工	B (観光従事者向け研修の実施など受入態勢の推進に取り組むとともに、観光周遊ルートなどの情報提供を行うなど観光客の誘致促進に取り組んでいることは一定の評価ができるので、B評価とした。)
	●阿波おどりの活性化を図るとともに、その魅力を国内外へ発信します。		推進	→	→	→		・夏の阿波おどりはもとより、春の阿波おどりとして県外に発信できる「はな・はる・フェスタ」に対し支援を行うとともに、本県を代表する観光資源として、広く国内外に紹介し、本県の知名度向上と観光客誘致につなげた。 ○県内主要「阿波おどり」入り込み客数〈H22〉153万人（天候や曜日、その他の要因で毎年変動） ○「はな・はる・フェスタ」入り込み客数〈H22〉28万人（天候、その他の要因で毎年変動）	商工	B (数値目標（県内主要「阿波おどり」入り込み客数 目標160万人 実績153万人）は未達成ではあるが、夏の阿波おどりはもとより、春の阿波おどり（はな・はる・フェスタ）に対しても支援をし、広く国内外へその魅力を発信していることは一定の評価ができるため、B評価とした。)
566	県内主要「阿波おどり」入り込み客数 〈H17〉148万人 → 〈H22〉160万人	万人				160	3	臨時駐車場を増設するなど、観光誘客促進に取り組み、天候、期間中の曜日、その他様々な要因で入込数に変動があるが、目標の160万人に達した年もあった。	商工	C (目標が未達成なのでC評価とした 入り込み客数は平成17年度に既に148万人であったため、これを控除すると41.7%となる)

主要事業名・事業概要		●工程（年度別事業計画）				取組状況 （進捗・達成状況、成果、今後の方針）	部局	委員意見				
番号	数値目標	数値目標（上段：目標、下段：実績）						達成度	評価	特記事項		
		単位	H19	H20	H21						H22	
567	「はな・はる・フェスタ」入り込み客数 〈H17〉20万人 → 〈H22〉28万人	万人				28	1	企画内容を工夫することにより、観光誘客促進に取り組み、平成19年度以降は、荒天であった平成21年度を除き、目標を達成した。	商工	A	（目標を達成しているためA評価とした）	
			32	31	13	28						
●本県の持つ豊かな自然や食材、個性ある伝統芸能、伝統技術などの地域資源を、体験などの様々な手法で観光資源として活用するとともに、高速道路新料金を積極的にPRするほか、とくしま観光講座の開催など県民参加型の観光客誘致を推進します。			推進	→	→	→			・本県の持つ豊かな自然や食材等を利用し、県外から教育旅行を受入れた。 ○体験型教育旅行における協議会受入泊数（累計）〈H22〉10,905泊	商工 農林	B	数値目標の事項を総合的に勘案してB評価とした。
568	観光入り込み客数【再掲】 〈H17〉1,245万人 → 〈H22〉2,150万人	万人	〈H22〉1,500	〈H22〉1,500	〈H22〉2,150	〈H22〉2,150	3	とくしまの観光ブランドを効果的に発信することで観光誘客促進に一層取り組んだ。	商工	C	チャレンジ的な非常に高い目標を掲げ取り組んだが、目標には遠く及ばなかったためC評価とした。	
			1,357	1,370	1,420	1,411						
569	体験型教育旅行における協議会受入泊数（累計） 〈H17〉— → 〈H22〉8,000泊	泊	〈H22〉5,000	〈H22〉5,000	〈H22〉5,000	〈H22〉8,000	1	本県の持つ豊かな自然や食材等を利用し、教育旅行の誘致・受入に積極的に取り組み、目標を大きく上回る成果を挙げた。	商工	A	目標を達成しているため、評価はAとした。	
			506	2,114	6,181	10,905						
570	グリーン（ブルー）・ツーリズムインストラクター数（累計） 〈H17〉16人 → 〈H22〉35人	人				35	1	22年度は23年1月に勝浦町にインストラクター研修会を誘致し、体験指導者の育成に取り組み、目標を達成した。	農林	A	目標を達成しているため、評価はAとした。	
			32	32	32	42						
561	「観光検定」の合格者数（累計） 〈H17〉— → 〈H22〉300人	人				300	1	県民参加型の観光振興に努め、目標値を達成し、20年度で事業を終了した。	商工	A	目標を達成しているため、評価はAとした。	
			242	309	—	—						
●県西部圏域の豊かな地域資源を活用し、官民一体となった「にし阿波観光圏」のPRや観光案内の向上などの取り組みを進め、観光客の来訪滞在を促進します。			推進	→	→	→			・平成20年10月国土交通大臣から観光圏認定を受けた、西部圏域の2市2町をエリアとする「にし阿波観光圏」において、観光地の広域連携により官民一体となって内外観光客の来訪滞在を促進する事業を推進した。 ・市町等と連携し、西部圏域を一体的にPRするツール制作、合同キャンペーン等を実施した。 ○PRツールの共同制作 総合パンフレット、ホームページ、DVD等の作成 ○広域合同観光キャンペーンの実施 8月神戸市さんちかタウン 9月とくしまINAKA博 3月大阪アウトドアフェスティバル ○大都市圏におけるキャンペーン等の実施 4月～3月「TIC（ツーリストインフォメーションセンター）東京」出展 5月「羽田空港における観光プロモーション」 5月「旅フェア」出展 9月ふるさと回帰フェア2010（大阪） 11月「トラベルマート」出展	西部	A	「にし阿波観光圏」は平成20年10月に国土交通省から認定を受けた（全国16地域、四国では初）。県西部の観光地同士が連携をした2泊3日以上滞在を促進するため、関係市町村や観光協会、旅館組合などと一緒になって大阪や神戸などの関西をはじめ、東京にも機会あるごとに観光PRされており、平成19年から22年の伸びでは宿泊客は10%、うち外国人は2.5倍と増加に繋がったことからA評価とする。今後も、三好・美馬の西部地域が一体となって観光客の来訪滞在に努めていきたい。 （附帯意見） 「にし阿波観光圏」について、外国人を含めた観光客の増加を実感しているところであり、今後も、県庁職員を中心に住民を引っ張っていただきたい。

主要事業名・事業概要		●工程（年度別事業計画）				取組状況 (進捗・達成状況、成果、今後の方針)	部局	委員意見			
番号	数値目標	数値目標（上段：目標、下段：実績）						達成度	評価	特記事項	
		単位	H19	H20	H21						H22
	●高速道路による県西部圏域への入り込み客増を図るため、市町や関係団体と連携協力し、都市部や高速道路サービスエリア等で圏域の魅力をPRします。			推進	→	・高速道路利用による県西部圏域への入り込み客数増を図るため、市町や関係団体と連携協力し、都市部（東京・大阪）や徳島自動車道吉野川SAにおいてパンフレット類によるPRに努めた。	西部	A			
	●先進的な医療サービスの提供と豊富な観光資源や地域食材を組み合わせた医療観光（メディカルツーリズム）の推進に取り組みます。			推進	→	・平成22年3月20日から23日にかけて、中国・上海市からの医療観光モニターツアーを実施した。 〈H21〉実施（平成22年3月20日～23日） ・上海からのチャーター便を活用し、旅行会社の企画による「医療観光ツアー」が実施された。 ○第1弾：平成22年5月22日～25日○第2弾：平成22年10月9日～11日	商工	A			
	●歩き遍路などの歩行者に対して快適な歩行空間を確保するため、民間活力を導入した「いやし・もてなし」施設（椅子、休憩小屋、案内板等）の整備を推進します。				推進	・既存の休憩施設等の調査を行うとともに、四国遍路を行っている方々にアンケート調査を実施し、休憩施設等に対するニーズの把握を行った。	県土	A			
	●近隣府県等と連携した広域観光・交流を推進します。		推進	→	→	・関西広域機構や四国ツーリズム創造機構などの広域連携組織を活用することにより、インバウンド事業の推進や周遊ルートの確立を図った。 ・上海万博会場内の「大阪館」に関西の12府県市共同によるPRコーナーを設けるとともに、「徳島ウィーク」として本県単独ブースを設置し、観光パンフレットの配布やLED応用製品、工芸品の展示を行い、徳島の魅力をアピールした。 ○「徳島ウィーク」の開催 平成22年5月22日～31日 期間中來場者：約3万人	商工	A			
	●外国人向けの観光案内所の運営や観光情報の提供を行うことなどにより、外国人観光客の受け入れ態勢の充実を図ります。		推進	→	→	・徳島県国際観光テーマ地区推進協議会として、外国語版「阿波ナビ」ホームページの管理運営を行い、随時、新しい情報提供を行うとともに、県内のビジット・ジャパン案内所の運営と外国語版観光パンフレットの発行・配布を行うことにより、本県を訪れた外国人観光客の受け入れ態勢の充実を図った。 また、平成22年7月に中国人の個人観光査証の発給要件が緩和されたことに伴い、施設内の案内に必要な多言語シールの作成、県内の決済カード利用可能店舗一覧を中国語ホームページで公開するなど、中国人観光客の受入態勢の整備を促進した。 ・ビジット・ジャパン案内所（1箇所）照会延べ件数〈H22〉1,314件	商工	A			
	●本県が持つ豊かな自然を活かした剣山をはじめとする自然公園へのアクセスとなる国道、県道の整備を推進します。		整備	→	→	・剣山のほか、高の瀬峡、神山などへのアクセスルートにおける幅員狭小区間の拡幅工事を実施した。 ○観光地へのアクセスルートにおける整備箇所数〈H22〉6箇所	県土	B	〔数値目標（観光地へのアクセスルート整備箇所数 目標6 実績6）は達成しているが、自然公園へのアクセスとなる国道・県道の整備箇所は他にもかなりあると思うので、B評価とした。〕		
571	観光地へのアクセスルート整備箇所数 〈H17〉→ 〈H22〉6箇所	箇所	〈H22〉 4	〈H22〉 4	〈H22〉 4	〈H22〉 6	1	観光地へのアクセスルート6箇所を整備した。	県土	A	（目標を達成しているのでA評価とした）
			—	2	4	6					
	●県内で開催されるイベントの情報等を、県民や全国へ効果的に発信するため道路情報板にイベント情報等を表示します。		実施	→	→	→	・県内に81基ある道路情報板を活用し、観光地までの距離やとくしまマラソン等のイベント情報を表示した。 ○イベント情報を表示する道路情報板数〈H22〉64箇所	県土	A		
572	イベント情報を表示する道路情報板数 〈H17〉→ 〈H22〉40箇所	箇所	〈H22〉 20	〈H22〉 20	〈H22〉 40	〈H22〉 40	1	観光地までの距離やとくしまマラソン等のイベント情報を表示した。	県土	A	（目標を達成しているのでA評価とした）
			59	34	57	64					

主要事業名・事業概要		●工程（年度別事業計画）				取組状況 (進捗・達成状況、成果、今後の方針)	部局	委員意見		
番号	数値目標	数値目標（上段:目標、下段:実績）						達成度	評価	特記事項
		単位	H19	H20	H21					
3 県産品を活用した魅力発信 ●「阿波の逸品」に代表される豊かな農林水産資源等を活用した徳島ならではの魅力的で売れる県産品の創出を行うとともに、コンビニエンスストアをはじめとする販売・流通事業者への販路開拓を支援し、県産品の販路拡大を通じて徳島の魅力を発信します。			推進	→	→	→	1	商工	A	
573	「県産品まるごとデータベース・阿波のあるでよネット」商品数 <H17>500品 → <H22>1000品	品	690	720	800	1,030	1	商工	A	(目標を達成しているためA評価とした)
574	コンビニエンスストアでの県産品販売コーナー設置数 <H17>- → <H22>20箇所	箇所	6	6	6	51	1	商工	A	(目標を達成しているためA評価とした)
●伝統工芸品の展示、実演、体験などを盛り込んだ工芸品展の開催等を通じ、伝統工芸品の販路拡大と産業の振興を図ります。			推進	→	→	→		商工	A	
●「藍染め・しじら織り製品」を新たにクールビズという視点で全国的認知度を高め、本県の魅力アップと藍染め・しじら織り地場産業の振興を図ります。			推進	→	→	→		商工	B	
●東京におけるアンテナショップとして、全国初となるコンビニエンスストアとのコラボレーションによる県産品の販売等を行うほか、大阪・名古屋のアンテナショップを活用し、本県の魅力と知名度のさらなる向上を図るとともに、首都圏における新たな出店の検討も進めます。			推進	→	→	→		商工	A	
4 スローライフを体験できる場づくり ●棚田や里山など農村景観を形成する貴重な財産の保全・整備・活用による地域コミュニティの新たな醸成と、スローライフを体験できる場づくりを進めます。			推進	→	→	→		農林	A	
575	「ふるさと水と土指導員」の認定数 <H17>31人 → <H22>40人	人	35	38	42	46	1	農林	A	(目標を達成しているためA評価とした)

主要事業名・事業概要		●工程（年度別事業計画）				取組状況 (進捗・達成状況、成果、今後の方針)	部局	委員意見		
番号	数値目標	数値目標（上段：目標、下段：実績）						達成度	評価	特記事項
		単位	H19	H20	H21					

7-4 笑顔と活気あふれるとくしまづくり

1 多くの人が集まる大会・会議、イベントの開催 ●にぎわいを創出するため、他県から多くの人が集まる大会・会議を誘致・開催します。			推進	→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> 平成19年に我が国最大の文化の祭典である第22回国民文化祭・とくしま2007(愛称「おどる国文祭」)を開催するほか、他県から多くの人が集まる大会・会議の誘致・開催を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ○第20回全国なぎさシンポジウムin徳島<H19> ○地域ICT未来フェスタ<H20> ○消費者問題国民会議2009徳島大会<H21> ○第10回川での福祉と教育の全国大会in徳島<H21> ○第10回全国障害者芸術・文化祭とくしま大会<H22> ○第44回全国ろうあ者大会<H22> 	県民 県土 危機 保健 商工	A	第22回国文祭・とくしま2007(おどる国文祭)をはじめとして、様々な全国大会等の誘致・開催を行った。 また、大会や会議以外にも、「マチ☆アソビ」を徳島市中心市街地で平成21年から開催し、アニメの上演や作品の展示など、多くの人が集まるイベント等を積極的に開催し、にぎわいを創出していることからA評価とした。	
578	国民文化祭(来場者数) <H19>700,000人	人	700,000				1	<ul style="list-style-type: none"> 我が国最大の文化の祭典である、第22回国文文化祭・とくしま2007(愛称「おどる国文祭」)を、県内外から延べ約77万人の来場者を迎え、「県民総参加」の祭典として、平成19年10月27日から11月4日の9日間、県内全24市町村で開催した。 	県民	A	目標を達成しているのでA評価とした。
579	第20回全国なぎさシンポジウムin徳島 (参加予定人数) <H19>約700人	人	700				3	平成19年11月8日に「第20回全国なぎさシンポジウムin徳島」を開催し、全国から約400人が参加した。	県土	C	目標を達成していないのでC評価とした。
580	地域ICT未来フェスタ(参加予定人数) <H20>100,000人	人		100,000			1	<ul style="list-style-type: none"> 国内最大級の地域情報化の祭典「地域ICT未来フェスタ2008inとくしま」を平成20年11月7日(金)から9日(日)の3日間、アスティとくしまをメイン会場に県内8市町11会場で開催し、インターネット参加を含め、県内外から延べ10万人が参加した。徳島ならではの取り組みとして、サテライト会場と光ファイバー網等を活用した交流イベントを実施し、過疎化が進む中山間地域の処方箋として「ICTの可能性」を全国に発信した。 ○地域ICT未来フェスタの参加者数 <H20>延べ12万人(プレイベント及び協賛イベントを含む) 	県民	A	目標を達成しているのでA評価とした。
581	消費者問題国民会議2009徳島大会(参加予定人数) <H21>300人	人	☺	☺	300		2	平成21年5月27日に「消費者新時代 消費者が主役」をテーマとして、消費者支援対策の一層の活性化を図り、消費生活の安定・向上に資することを目的に、内閣府と共催で開催し、徳島県民を中心に約250人が参加した。	危機	B	概ね目標を達成しているのでB評価とした。
582	第10回川での福祉と教育の全国大会in徳島 (参加予定人数) <H21>500人	人	☺	☺	500		1	「第10回川での福祉と教育の全国大会in徳島」を平成21年10月9日～11日に開催し、全国から約650人参加した。	県土	A	目標を達成しているのでA評価とした。

主要事業名・事業概要		●工程（年度別事業計画）					取組状況 (進捗・達成状況、成果、今後の方針)	部局	委員意見	
番号	数値目標	数値目標（上段:目標、下段:実績）				達成度			評価	特記事項
		単位	H19	H20	H21					
583	第10回全国障害者芸術・文化祭とくしま大会（参加予定人数） <H22>約10,000人	人	☐	☐	☐	10,000	1	保健	A	目標を達成しているのでA評価とした。
			—	—	—	12,000				
584	第44回全国ろうあ者体育大会（参加予定人数） <H22>約2,800人	人	☐	☐	☐	2,800	1	保健	A	目標を達成しているのでA評価とした。
			—	—	—	2,870				
585	第8回全国ほんもの体験フォーラムin徳島（参加予定人数） <H22>1,000人	人	☐	☐	☐	1,000	—	商工	—	東日本大震災の影響で中止となり、実績がないので評価はしていない。
			—	—	—	1,647 (申込者数)				
●新たな「トクシマ・マチ空間」の創出を目指し、冬の観光イベントを開催し、四季を通じたにぎわいを創出します。				開催	→			商工	A	平成21年から徳島市中心市街地で開催し、アニメの上演や作品の展示などが行われている。 (附帯意見) 県南では、外国人の方が通訳をつけて観光したり、道の駅では地元の食材も販売されており、非常に良い観光リソースである。しかし、県外への宣伝が不足していると感じており、次回イベント時には、県南の体験型の観光リソースを、たくさん宣伝していただきたい。
586	とくしま冬の「マチ☆アソビ」の開催 <H21>～開催		☐	☐	☐	開催	1	商工	A	(目標を達成しているのでA評価とした)
			—	—	開催	開催				
2 大会・会議の誘致促進 ●多くの県外の人が集まる大会・会議を行う主催者に対して、高速道路新料金でより訪れやすくなった徳島をPRするとともに、開催経費や郷土芸能の招へい費等の支援を行うことで、その誘致を促進します。			推進	→	→	→		商工	A	・本県に多くの県外客が集まる大会・会議を行う主催者に対し、開催経費や郷土芸能等の助成を拡充して実施した。 ・コンベンショントレードショーの出展、観光割引制度の実施、飲食店ガイドブックの提供等により、積極的に誘致活動を展開した。 ○コンベンション（四国大会以上）の参加者数（累計） <H22>548,637人
576	コンベンション（四国大会以上）の参加者数（累計） <H17>76,000人 → <H22>500,000人	人				500,000	1	商工	A	(目標を達成しているのでA評価とした)
			263,608	364,962	444,376	548,637				
3 交流拠点を活用したにぎわいづくり ●「渦の道」、「あすたむらんど徳島」、「アスティとくしま」などの交流拠点の魅力を高めるとともに、交流拠点を活用したイベントの充実を図ります。			推進	→	→	→		商工	B	「渦の道」や「あすたむらんど徳島」など交流拠点を活用したイベントの開催を積極的に行い、にぎわいづくりに取り組まれていることは一定の評価ができることから、B評価とした。

主要事業名・事業概要		●工程（年度別事業計画）				取組状況 (進捗・達成状況、成果、今後の方針)	部局	委員意見		
番号	数値目標	数値目標（上段:目標、下段:実績）						達成度	評価	特記事項
		単位	H19	H20	H21					
4 国際交流による国際化・活性化の推進 ●ドイツ・ニーダーザクセン州との経済・文化・教育交流や、中国・広東省、ブラジル・サンパウロ州との文化交流などを通じ、地域の国際化・活性化を推進します。			推進	→	→	→			ドイツについては、日独交流150周年で来日し、徳島にも来県されているウルフ大統領は、昨年までニーダーザクセン州政府の首相であったと伺っている。徳島にゆかりのある方が大統領ということであるので、ニーダーザクセン州はもとより、ドイツとの交流を積極的に深めていただきたい。 また中国については、知事が訪中し、10月24日に湖南省との友好提携を調印されたとの報道があった。加えて、3月11日の東日本大震災の影響で先延ばしにされていた湖南省とのチャーター便が来年1月より10日に1回、徳島阿波おどり空港に就航することとなった。今後の観光や経済交流に繋げていただけるよう期待している。評価はAとした。	
587	ドイツ・ニーダーザクセン州との交流（日本語指導教員の派遣、スポーツ青少年交流） <H19> 公式訪問団の派遣、阿波人形浄瑠璃の上演、合唱団の招へい（おどる国文祭） <H20> 公式訪問団の受入、産業技術総合見本市「ハノーバー・メッセ」への徳島ブースの出展 <H21> スポーツ青少年交流				出展・招へい	1			日本語指導を行う教員の派遣及び柔道による青少年交流等を実施し、目標どおり達成された。	
577	ドイツ・ニーダーザクセン州との友好提携 <H22>提携		提携	推進	推進	推進	1		平成19年9月に「日本国徳島県とドイツ連邦共和国ニーダーザクセン州との交流に関する共同宣言」に調印した。	
588	中国・広東省との文化交流等（文化行政部門の職員・公式訪問団の受入、広州芸術博物院所蔵作品の展示、舞踊団の招へい） (人的交流の推進) 国際交流員の受入 <H19> 文化行政部門の職員の受入、公式訪問団の受入、広州芸術博物院所蔵作品の文学書道館での展示、舞踊団の招へい（おどる国文祭）		受入・展示・招へい				1		書作品の展示等を実施し、目標どおり達成された。	

主要事業名・事業概要		●工程（年度別事業計画）				取組状況 (進捗・達成状況、成果、今後の方針)	部局	委員意見			
番号	数値目標	数値目標（上段:目標、下段:実績）						達成度	評価	特記事項	
		単位	H19	H20	H21						H22
589	ブラジル・サンパウロ州との文化交流等（公式訪問団の派遣、阿波踊り交流・技術指導） <H20> 公式訪問団の派遣、阿波おどり交流、技術指導		㊦	派遣・交流・指導			1	公式訪問団の派遣や文化交流等を実施し、目標どおり達成された。	商工	A	目標を達成しているため、評価はAとした。
			—	派遣・交流・指導	—	—					

7-5 e-とくしまづくり

1 e-とくしま推進プランの推進 ●「e-とくしま推進プラン」について、「e-とくしま推進会議」において適切に進行管理するとともに、「(財)e-とくしま推進財団」において具体的な課題に取り組むなど、官民一体となって着実にプランを推進します。			推進	→	→	→		1	・本県における地域情報化指針「e-とくしま推進プラン」（平成16年3月策定、平成23年3月改訂）について、「e-とくしま推進会議」を開催し、協働目標の進捗状況について確認を行うなど、進行管理を図った。 ○「(財)e-とくしま推進財団」を活用した産学官地域連携事業数（累計）<H22>76事業	県民	A	
592	「(財)e-とくしま推進財団」を活用した産学官地域連携事業数（累計） <H17>3事業 → <H22>50事業	事業	<H22>30	<H22>30	<H22>50	<H22>50		1	・国、県、市町村、大学、経済団体、民間事業者、NPO法人等と連携して、調査研究事業やICT普及啓発事業を行った。	県民	A	(目標を達成しているためA評価とした)
			24	38	48	76						
●国、関係団体、関係市町村等との連携・協力の下、国内最大級の地域情報化イベント「地域ICT未来フェスタ」を開催し、「徳島ならではの地域情報化の取り組みについて、全国に向けて情報発信します。			開催準備	開催					・国内最大級の地域情報化の祭典「地域ICT未来フェスタ2008 inとくしま」を平成20年11月7日（金）から9日（日）の3日間、アスティとくしまをメイン会場に県内8市町11会場で開催し、インターネット参加を含め、県内外から延べ10万人が参加した。徳島ならではの取り組みとして、サテライト会場と光ファイバー網等を活用した交流イベントを実施し、過疎化が進む中山間地域の処方箋として「ICTの可能性」を全国に発信した。	県民	A	
593	「地域ICT未来フェスタ」の開催 <H20>開催		開催準備	開催	—	—		1	・平成20年11月7日から9日までの3日間、アスティとくしまをメイン会場に県内8市町11会場で開催した。	県民	A	(目標を達成しているためA評価とした)
●「地域ICT未来フェスタ」により醸成された「産学官」の連携・協働の取り組みを将来につなげ、県民のさらなるICT利活用を促進するため、とくしま地域ICT未来プロジェクトを推進します。					推進	→			・地上デジタル放送への移行方法やメリットの紹介、ブロードバンドを活用した生活全般のサービス紹介、及びICTを活用した障害者の活動紹介等の番組を制作した。 ・e-とくしまづくり推進事業として、e-とくしま推進プランの推進を図る事業を公募し、3つの事業を支援した。 ・とくしまWeb大賞として、県内の企業団体等が運営するWebサイトのうち優れたWebサイトを顕彰した。	県民	A	
2 地上デジタル放送とブロードバンドに対応した「全県CATV網構想」の達成 ●すべての県民がどこでもブロードバンド環境を享受できるよう、FTTH（光ファイバ）などの高度情報通信基盤の整備を進めます。			整備促進	→	→	→			・国の補助事業、交付金事業等を活用し、市町等が行う情報通信基盤整備に対する支援を行うことにより、平成21年度は、1市3町において高度情報通信基盤の早急な整備を促進した。 ○ブロードバンドサービス世帯普及率<H22>56.7%（23年3月末現在） ○超高速ブロードバンドサービス（FTTH：光ファイバ）利用可能世帯の割合<H22>98.7%（23年3月末現在） ○過疎地域におけるCATVサービス提供市町村の割合<H22>100%（23年3月末現在）	県民	A	徳島県は、人口が密集している吉野川流域や那賀川流域が近畿方面に面するため、以前から多くの家庭で区域外波であるアナログの関西の電波を視聴してきた。しかし地上デジタル化によって、これまで視聴できた関西のアナログ放送が視聴できなくなるということで、平成23年7月の地デジ化に向け、国の補助事業や交付金事業等を利用して全県ケーブルテレビ化に県を挙げて取り組み、平成22年11月に完成させた。 これとともに、ブロードバンド環境についても、ブロードバンドサービス世帯普及率を除き、目標を達成していることから、A評価とした。

主要事業名・事業概要		●工程（年度別事業計画）					取組状況 (進捗・達成状況、成果、今後の方針)	部局	委員意見	
番号	数値目標	数値目標（上段：目標、下段：実績）				達成度			評価	特記事項
		単位	H19	H20	H21					
590	ブロードバンドサービス世帯普及率 <H17>37.4% → <H22>60%	%				60	2	県民	B	(附帯意見) 高齢者の方について、電話もほとんどしないのにIP電話の契約をする等、不利な契約にならないようにフォローしていただきたい。
			45.4	51.4	53.6	56.7				
594	超高速ブロードバンドサービス (FTTH：光ファイバ) 利用可能世帯の割合 <H17>63.6% → <H22>90.0%	%				90	1	県民	A	目標を達成しているので、評価はAとした。
			74.0	77.4	90.6	98.7				
591	過疎地域におけるCATVサービス提供市町村の割合 <H15>6.9% → <H22>100%	%				100	1	県民	A	目標を達成しているので、評価はAとした。
			61.5	61.5	92.3	100				
3 県民のICT利活用能力の向上に資する人材育成 ●市町村やNPO法人等と連携しながら、県民のICT利活用能力の向上に資する人材育成を図ります。			推進	→	→	→	1	県民 保健	A	
595	シニアITアドバイザー取得者数（累計） <H17>20人 → <H22>300人	人	<H22> 200	<H22> 200	<H22> 200	<H22> 300				
			142	201	276	338				
596	シニア情報生活アドバイザー登録者数 (累計) <H17>11人 → <H22>100人	人				100	1	県民	A	(目標を達成しているのでA評価とした)
			55	73	86	101				

主要事業名・事業概要		●工程（年度別事業計画）				取組状況 (進捗・達成状況、成果、今後の方針)	部局	委員意見		
番号	数値目標	数値目標（上段:目標、下段:実績）						達成度	評価	特記事項
		単位	H19	H20	H21					
4 電子自治体の構築 ●県と市町村が共同で、ICTを活用した行政手続のオンライン化や事務の効率化、迅速化を図る「電子自治体」を構築します。			推進	→	→	→	企画 病院 県土	B 数値目標において、電子申請の利用状況は目標に遠く及ばないが、電子入札、電子カルテ等については、着実に進展していることから、B評価とした。		
597	電子カルテシステムの導入・運用する県立病院数 〈H17〉2病院 → 〈H21〉3病院	病院			3				1	三好病院において、電子カルテシステムの整備を行い、平成21年度から3病院で運用を開始した。
			2	2	3	3				
598	オンライン手続の利用促進 「オンライン利用促進計画」の策定 〈H19〉「オンライン利用促進計画」の策定		策定						1	オンライン手続の利用を促進するため、「電子申請・届出システムオンライン利用促進計画」（平成20年3月策定）に基づき、電子申請による行政手続の対象範囲拡大に努めた。
			策定	推進	推進	推進				
599	電子申請・届出システムの利用件数 〈H18〉632件 → 〈H22〉12,000件	件	☺	☺		12,000	3	電子申請システムについては、平成16年8月から県と市町村が共同アウトソーシング方式により運用していたが、操作性と機能に改善すべき課題を抱え、利用が少ない状況であったため、平成21年度にシステム更新の際には、住民及び職員の利用が促進されるよう検討を行った。 また、平成19年3月に「オンライン利用促進計画」を策定し、オンライン可能な手続についても見直しを行い、オンライン利用の阻害要因がない、または少ない手続を優先し、県民の日常生活にとって身近な手続について、重点的にオンライン化を進めた。 その結果、手続件数は平成22年度末見込みで4,055件とH20年度末現在（892件）の実績件数を大きく上回る状況となったが、目標値には届かなかった。		
			224	892	2,574	4,055				
600	電子入札システムの運用 〈H19〉本格運用		本格運用				1	平成19年4月より本格運用開始。		
			本格運用	本格運用	本格運用	本格運用				

主要事業名・事業概要		●工程（年度別事業計画）					取組状況 (進捗・達成状況、成果、今後の方針)	部局	委員意見	
番号	数値目標	数値目標（上段：目標、下段：実績）				達成度			評価	特記事項
		単位	H19	H20	H21					
601	電子入札システムの市町村との共同運用 <H20>- → <H22>6市町村	市町村	☺	☺		6	1	平成22年4月より6市との共同利用の本格運用開始。	県土	A (目標を達成しているためA評価とした)
			-	-	4	6				
	●共用データベースや認証・決裁基盤など、各システムが共通して利用するシステム共通基盤の整備を、順次進めます。		開発	→	一部導入	→		・長崎県から提供を受け、徳島県仕様へのカスタマイズを行った職員データベースについて、平成21年4月からの総務事務システムの運用開始に伴い、利用を開始した。また、平成22年10月より電子決裁基盤及び共通認証基盤の運用を開始した。	企画	A
	●総務事務の発生源入力を可能とする総務事務システム及び決裁・文書管理業務の効率化を図る電子決裁・文書管理システムを整備し、運用します。		開発	→	開発・運用	運用		・長崎県から提供を受け、徳島県仕様へのカスタマイズを行った総務事務システムについて、平成21年4月から運用を開始するとともに、制度改正等に伴うシステム改修を行った。	企画	A
602	「総務事務システム」の整備・運用 <H21>運用開始				運用開始		1	長崎県から提供を受けた総務事務関係システムの徳島県仕様へのカスタマイズ及び徳島県独自のシステムについて新規開発を進め、平成21年4月から運用を開始した。	企画	A (目標を達成しているためA評価とした)
			開発	一部運用開始	運用開始	推進				
603	「電子決裁・文書管理システム」の整備・運用 <H22>運用開始		☺	☺	☺	運用開始	1	電子決裁システムについては、長崎県から提供を受けたシステムを徳島県仕様へのカスタマイズを行い、また文書管理システムについては、本県独自の仕様により、新たにオープンソースソフトウェアを活用して構築し、平成22年10月から運用を開始した。	企画	A (目標を達成しているためA評価とした)
			-	-	-	運用開始				
	●工事や委託業務の成果品等の電子納品を推進し、業務の効率化を図ります。		委託業務一部導入	委託業務全面実施	工事一部導入	推進		・調査、設計、工事などの各業務段階の最終成果を電子成果品として納品する電子納品を推進した。 ・委託業務については、平成18年度から運用を開始し、平成19年度は順次拡大を行い、平成20年度より全面実施を開始した。 ・工事については、平成19年12月より実証実験、平成20年10月より試行運用を開始しており、平成21年10月より本運用を開始。平成22年10月より全工事を電子納品の対象とした。	県土	A
	5 次世代収納基盤システムの導入 ●県税などの公金納付の利便性向上のため、コンビニ納付、電子納付、クレジット納付に対応可能な「次世代収納基盤システム」を導入します。			整備	運用	→		・県税などの公金納付の利便性向上のため、平成20年度にコンビニ納付、電子納付、クレジット納付に段階的に対応可能な「次世代収納基盤システム」を導入した。平成21年5月から自動車税のコンビニ収納を実施し、24時間・土日祝日においても公金の納付が可能となった。	出納	A
604	「次世代収納基盤システム」の導入・運用 <H19>検討 → <H21>運用開始		☺		運用開始		1	県税などの公金納付の利便性向上のため、平成20年度に「次世代収納基盤システム」を導入した。平成21年5月から自動車税のコンビニ収納を実施し、24時間・土日祝日においても公金の納付が可能となった。 H22 納期内納付率 74.0% 前年比 0.2%増 (コンビニ収納導入前 H20 71.0% 3.0%増)	出納	A (目標を達成しているためA評価とした)
			検討	導入	運用開始	運用				

主要事業名・事業概要		●工程（年度別事業計画）				取組状況 (進捗・達成状況、成果、今後の方針)	部局	委員意見		
番号	数値目標	数値目標（上段：目標、下段：実績）						達成度	評価	特記事項
		単位	H19	H20	H21					

7-6 文化立県とくしまづくり

1 優れた芸術文化に触れる機会の充実 ●「とくしまきり芸術文化事業」等により、県民が身近に優れた芸術文化（舞台芸術）に触れ、学ぶ機会を充実します。		推進	→	→	→	1	・国民文化祭の開催を契機に、公立文化施設や学校等との連携により、人形浄瑠璃公演やクラシックコンサート、阿波藍ファッションショーなどを開催し、身近な施設で優れた文化に触れる機会の充実を図った。	県民	A		
●児童・生徒が身近に芸術文化に触れる機会を充実します。		推進	→	→	→	1	・市町村との連携を図り、文化庁等の事業も積極的に活用することにより、学校への芸術家の派遣や優れた舞台芸術の巡回公演などを実施した。今後は、学校と芸術家をつなげるための人材バンクを創設し、児童・生徒の文化活動のより一層の充実を図る。 ○学校への芸術家等派遣回数（累計）〈H22〉357回	教育	A		
607	学校への芸術家等派遣回数（累計） 〈H17〉20回 → 〈H22〉300回	回	〈H22〉140	〈H22〉200	〈H22〉300	〈H22〉300	1	22年度は、学校への芸術家派遣事業27回、本物の舞台芸術体験事業42回、児童劇巡回6回を実施した。	教育	A	(目標を達成しているためA評価とした)
●博物館・近代美術館の常設展示や国立美術館巡回展等の魅力ある企画展の開催を通じ、広く県内外に向けて文化・芸術の感動や体験の場を提供します。		推進	→	→	→	1	・郷土が育んだ文化財や、近現代の美術作品などの文化・芸術を身近に鑑賞・体験する機会を提供するため、博物館・近代美術館において、展覧会（常設展示、様々な分野に関する企画展）を開催し、文化の振興を図った。 ○博物館・近代美術館入館者数累計（累計）〈H22〉359万人	教育	A		
608	博物館・近代美術館入館者数（累計） 〈H17〉248万人 → 〈H22〉341万人	万人	〈H22〉300	〈H22〉300	〈H22〉330	〈H22〉341	1	博物館では常設展、部門展示の他、企画展を3回開催した。美術館では所蔵作品展の他、特別展を3回開催した。	教育	A	(目標を達成しているためA評価とした)
●鳥居龍蔵博士の顕彰のあり方を見直し、県民がその業績等に触れる機会を充実します。		検討	開設準備	→	開館	1	・平成19年度から検討・開設準備を進めていた鳥居龍蔵記念博物館が、平成22年11月3日に文化の森の三館棟内に開館した。 ○鳥居龍蔵記念博物館の開館〈H22〉開館 ・鳥居龍蔵記念博物館入館者数〈H22〉8,965人	教育	A		
609	鳥居龍蔵記念博物館の開館 〈H22〉開館	☺	—	整備	整備	開館	1	平成22年11月3日、文化の森の三館棟内に開館した。	教育	A	(目標を達成しているためA評価とした)
2 あわ文化の創造・発信 ●文化の森開園20周年を記念した事業を開催することにより、一層の本県文化の振興を図ります。					開催	→	・平成22年に文化の森総合公園は開園20周年を迎え、「文化の森開園20周年記念事業“2010年、みんなと歩む新たな一歩”」をメインテーマとし、年間を通じ、切れ目なくイベントを開催した。	教育	B	(文化の森各館が、年間を通じ切れ目なくイベントを開催し、数値目標（文化の森開園20周年事業開催期間の入館者数 目標4万人増 実績3万3千人増）をほぼ達成していることから、B評価とした。)	
610	文化の森開園20周年事業開催期間の入館者数 〈H22〉対前年同時期 (H21年2月～H22年1月 約76万人)比4万人増	万人	☺	☺	☺	対4万人増	2	文化の森の各館が、（共催事業も含め）年間を通じ、切れ目なくイベントを開催した。	教育	B	(目標をほぼ達成しているためB評価とした)

主要事業名・事業概要		●工程（年度別事業計画）				取組状況 （進捗・達成状況、成果、今後の方針）	部局	委員意見		
番号	数値目標	数値目標（上段：目標、下段：実績）						達成度	評価	特記事項
		単位	H19	H20	H21					
●私たちが受け継いできた貴重な財産である阿波の文化を再認識し、新しいあわ文化を創造・発信するため、インターネット等のメディアを活用して「あわ文化」情報を県内外に発信します。			推進	→	→	→		県民	A	
611	「あわ文化」情報の発信回数 <H19>以降毎年1回以上	回	1回以上	1回以上	1回以上	1回以上	1	県民	A	（目標を達成しているためA評価とした）
			12	7	7	7				
●本県が全国に誇る伝統芸能の県外・海外公演を開催し、あわ文化の発信を行います。			推進	→	→	→		県民	A	
612	伝統芸能県外・海外公演開催数（累計） <H17>6件 → <H22>180件	件	<H22>40	<H22>60	<H22>100	<H22>180	1	県民	A	（目標を達成しているためA評価とした）
			47	87	144	196				
●文化振興にあたっての官民連携を推進します。			推進	→	→	→		県民	A	
613	文化事業への協力企業数 <H17>- → <H22>10社	社				10	1	県民	A	（目標を達成しているためA評価とした）
			10	11	11	11				
●人形浄瑠璃の一層の振興を図るため、新たな演目の制作に取り組むとともに、伝統芸能を観光資源として活用した地域の活性化を図ります。また、保存・継承と後継者育成のための伝承活動を拡充します。			推進	→	→	→		県民教育	B	
614	「阿波十郎兵衛屋敷」入館者数（累計） <H19>～<H22>150,000人	人				150,000	2	県民	B	（目標をほぼ達成しているためB評価とした）
			35,231	68,308	98,774	127,360				

主要事業名・事業概要		●工程（年度別事業計画）				取組状況 (進捗・達成状況、成果、今後の方針)	部局	委員意見		
番号	数値目標	数値目標（上段:目標、下段:実績）						達成度	評価	特記事項
		単位	H19	H20	H21					
	●平成21年10月3日から11月3日を「阿波人形浄瑠璃月間」と位置づけ、古典作品や新たな取り組みを織り交ぜたジョーリを県内各地で集中的に開催し、県内はもとより、県外（主に関西方面）からの集客に繋がります。				開催		県民	A		
615	ジョーリ100公演の開催 <H21>開催		◎	◎	開催	1	県民	A	(目標を達成しているためA評価とした)	
	●国民文化祭の成果を踏まえ、「あわ文化」の創造に向けて、県民の主体的な取り組みを促進する公募提案型事業や市町村との連携による演奏会などの事業を盛り込んだ、新たなスタイルの「県民文化祭」を開催します。		検討	開催	→	→	県民	A		
616	新たなスタイルの「県民文化祭」の開催 <H20>～ 開催			開催		1	県民	A	(目標を達成しているためA評価とした)	
	●「文化立県とくしま推進基金」を活用し、国民文化祭で設定した「阿波藍」、「阿波おどり」、「阿波人形浄瑠璃」、「第九」の四大モチーフ全国発信事業等を実施します。		検討	創設・実施	実施	→	県民	A		
605	「文化立県とくしま推進基金」の創設 <H20>創設			創設		1	県民	A	(目標を達成しているためA評価とした)	
	●全国でも貴重な中世遺跡である「守護町勝瑞遺跡」について、国・町と連携し、発掘調査を行います。		推進	→	→	→	教育	A		

主要事業名・事業概要		●工程（年度別事業計画）					取組状況 (進捗・達成状況、成果、今後の方針)	部局	委員意見		
番号	数値目標	数値目標（上段:目標、下段:実績）				達成度			評価	特記事項	
		単位	H19	H20	H21						H22
617	発掘調査面積（累計） <H17>4,800m2 → <H22>12,000m2	m ²				12,000	1	教育	A	(目標を達成しているためA評価とした)	
			9,600	11,200	12,600	13,000					史跡整備の基礎資料を得るとともに、史跡周辺の重要遺跡の確認に努めた。
●国指定史跡や周辺の文化財をつなぎあわせて、各地の博物館・資料館等と連携しながら、文化財を活かした地域づくりを進めます。			推進	→	→	→		教育	C	文化財を活かした地域づくりのためにはその担い手となる人材の養成が重要である。数値目標（文化財ボランティア養成人数 目標200、実績124）に遠く及ばないため、成果不足と言わざるを得ずC評価とした。	
618	文化財ボランティア養成人数（累計） <H17>- → <H22>200人	人				200	3	教育	C	(目標が未達成なのでC評価とした)	
			61	86	107	124					養成講座の受講生数は確保したものの、ボランティアガイドの質を確保するため、全講座の受講を修了の要件とした。そのため124名の養成人数にとどまった。
●歴史的景観を保全し、活用する取り組みを推進するなかで、地域の活性化を図ります。			推進	→	→	→		教育	B		
619	歴史的景観（史跡を含む）の国指定・選定数 <H17>9地区（うち史跡7地区） → <H22>13地区（うち史跡10地区）	地区				13	3	教育	C	目標が未達成なのでC評価とした 選定数は平成17年度に既に9地区あったため、これを控除すると75%となる	
			9	10	11	12					歴史的景観を活かした地域づくりを進めるため、史跡指定等の条件整備に努めた。その結果、平成20年度は渋野丸山古墳、平成21年度は重要文化的景観「榎原の棚田」、平成22年度は阿波遍路道（鶴林寺道・太龍寺道・いわや道）が指定・選定された。 今後、鳴門・板野古墳群、板東俘虜収容所跡については鳴門市が国史跡指定に向けて準備を進めており、県としては国指定に向けて、できるだけ早い時期に申請できるように、国及び市との調整に努める。
3 文化の担い手づくり ●あわ文化や近現代の優れた芸術作品に直接触れあう機会を設けるとともに、絵本の読み聞かせ講習や、史跡巡り、ワークショップ、古文書解説等の事業により、次代のあわ文化の担い手を育みます。			推進	→	→	→			県民教育	A	
620	文化の森文化施設普及事業の開催回数（累計） <H19>～<H22>1,200回以上	回	<H22>800	<H22>800	<H22>800	<H22>1,200	1	教育	A	(目標を達成しているためA評価とした)	
			448	733	986	1,261					文化の森の各館において、年間を通して阿波文化を直接体験できる普及事業を開催した。
621	文学書道館の講座開催回数（累計） <H19>～<H22>180回以上	回	<H22>160	<H22>160	<H22>160	<H22>180	1	県民	A	(目標を達成しているためA評価とした)	
			58	103	164	204					平成22年度は、文学38回、書道23回の講座を開催した。

主要事業名・事業概要		●工程（年度別事業計画）				取組状況 (進捗・達成状況、成果、今後の方針)	部局	委員意見		
番号	数値目標	数値目標（上段：目標、下段：実績）						達成度	評価	特記事項
		単位	H19	H20	H21					
	●高校生を対象に、芸術文化分野での創作活動の支援や伝統芸能分野での担い手育成を行うとともに、伝統芸能の文化発信活動を支援します。		推進	→	→	→	教育	A		
	4 全国的な祭典の開催 ●国民文化祭を開催し、「あわ文化」の創造を図ります。		開催				県民	A	平成19年に第22回国民文化祭(おどる国文祭)を開催し、県内外から77万人が来場し、県内の文化団体の活性化に繋がった。またこれを契機に、「文化立県とくしま推進基金」を創設し、あわ文化の4大モチーフである「阿波藍」、「阿波おどり」、「阿波人形浄瑠璃」、「第九」の全国発信事業を精力的に展開している。加えて、国民文化祭の成果を踏まえ、平成20年から県民の主体的な取り組みを促進する公募提案型の事業や市町村との連携による演奏会などの事業を盛り込んだ新たなスタイルの県民文化祭が開催され「あわ文化」の創造が図られていることから、A評価とした。	
606	国民文化祭・とくしま2007の成功(来場者) <H19>開催・来場者70万人	人	700,000				1	A	(目標を達成しているのでA評価とした)	
	●近畿高等学校総合文化祭を開催します。		準備	開催			教育	A		
622	近畿高等学校総合文化祭の開催 <H20>開催		準備	開催			1	A	(目標を達成しているのでA評価とした)	
	5 四国遍路文化の世界遺産登録に向けた取り組み ●「四国八十八箇所霊場と遍路道」は「世界に誇れる四国の財産」であり、この「かけがえのない文化」を適切に保存するとともに、全国に、さらには世界へ向けて発信し、人類共有の財産として将来の世代へ引き継ぐため、四国4県が連携して世界遺産登録を目指した取り組みを進めます。		推進	→	→	→	企画	B		

7-7とくしまスポーツ王国づくり

	1 スポーツによるにぎわいづくりの推進 ●「徳島スポーツビレッジ」などのスポーツ施設や、自然環境を活用して、スポーツ大会や合宿の誘致を進めることで、スポーツを通じたにぎわいづくりを推進します。		推進	→	→	→		商工	B	旅行代理店訪問等により大会や合宿の誘致に取組む、数値目標(スポーツ大会、合宿の誘致件数)目標40実績38は、ほぼ達成していることから、B評価とした。
625	スポーツ大会、合宿の誘致件数 <H17>16件 → <H22>40件	件	<H22>32	<H22>32	<H22>40	<H22>40	2	商工	B	(目標をほぼ達成しているのでB評価とした)
			33	35	35	38				

主要事業名・事業概要		●工程（年度別事業計画）				取組状況 （進捗・達成状況、成果、今後の方針）	部局	委員意見		
番号	数値目標	数値目標（上段：目標、下段：実績）						達成度	評価	特記事項
		単位	H19	H20	H21					
	●市町村等と連携協力し、プロスポーツを活用したスタジアムのにぎわい創出や、本県を全国にPRする施策を展開します。		推進	→	→	→	商工	A		
	●県民のスポーツ振興や青少年の健全育成を図るとともに、本県の魅力や県民挙げての「おもてなしの心」を全国に情報発信できる「とくしまマラソン」を開催し、新たなにぎわいづくりを実現します。		準備	開催	→	→	商工	A		
623	「とくしまマラソン」の開催 〈H20〉〈H21〉〈H22〉開催		〈H20〉開催	〈H20〉開催	〈H20〉〈H21〉開催	〈H20〉〈H21〉〈H22〉開催	1	商工	A	（目標を達成しているためA評価とした）
	●県南部圏域にある自然環境や人的資源を活用することにより、県南部圏域をアウトドアスポーツのメッカにし、地域ブランド力の向上や交流人口の増加を図ります。		推進	→	→	→	南部	A		
626	アウトドアスポーツのインストラクター・ガイドを業とする個人・団体数 〈H17〉6団体 → 〈H22〉10団体	団体				10	1	南部	A	（目標を達成しているためA評価とした）
			7	9	10	11				
627	アドベンチャーレースなどのアウトドアイベントの開催 〈H20〉〈H21〉〈H22〉開催		☺	〈H20〉開催	〈H20〉〈H21〉開催	〈H20〉〈H21〉〈H22〉開催	1	南部	A	（目標を達成しているためA評価とした）
			—	開催	開催	開催				
	2 競技力向上対策の推進 ●全国大会での躍進を目指すスポーツ表彰・褒賞制度を創設します。		創設	推進	→	→		県民	B	数値目標の「スポーツ表彰・褒賞制度」の創設については、目標の19年度に創設に1年遅れて20年度に創設し、以降、毎年表彰等を行っていることから、B評価とした。

主要事業名・事業概要		●工程（年度別事業計画）				取組状況 （進捗・達成状況、成果、今後の方針）	部局	委員意見		
番号	数値目標	数値目標（上段：目標、下段：実績）						達成度	評価	特記事項
		単位	H19	H20	H21					
628	「スポーツ表彰・褒賞制度」の創設 〈H19〉創設		創設				県民	B	（目標をほぼ達成しているのでB評価とした）	
		策定中	創設	推進	推進	2				・平成21年3月に「徳島県スポーツ賞」表彰式を実施し、銘板「グランプリボード」を、ポカリスエットスタジアム正面玄関内に設置し、グランプリ賞受賞者の氏名、功績等を刻むこととした。 ・平成22年度は知事からグランプリ賞9名（選手5名、指導者4名）と奨励賞1団体、ドリーム賞選手7名を表彰した。
●競技スポーツの重点強化による成果志向型の選手強化を図り、競技力の向上を進めます。			推進	→	→	→	県民	C	強化対象団体の絞り込みを行うとともに、新たな取り組みとして、競技得点の高い団体競技への強化費の重点配分やブロック予選を突破した団体を対象に本大会までの直前強化事業への支援を行った。 ○国民体育大会天皇杯順位〈H22〉44位	
629	国民体育大会天皇杯順位 〈H17〉46位 → 〈H22〉30位台	位				30位台				3
●「競技力向上スポーツ指定校制度」により、有力選手を特定の公立高校へ集め、指導者の体制を整備するとともに、中学・高校の連携強化を進めるなど、競技力の基盤強化を図ります。			推進	→	→	→	県民教育	B		
624	競技力向上のための中学・高校連携ゾーン数 〈H17〉— → 〈H22〉16ゾーン	ゾーン				16				1
●本県出身選手が全国大会や国際大会で活躍ができるよう、優れた素質を持つジュニア選手をトップレベルの競技者へ育てる一貫指導システムの構築とトップ指導者の養成を図ります。					推進	→	県民	B		
										1
3	生涯スポーツの推進 ●「する」「見る」「支える」など多様なスポーツへの取り組みを促進するため、「とくしまスポーツSHOWデー」実行委員会による、誰もが楽しめるスポーツイベントなどへの助成や情報発信などを行います。		推進	→	→	→	県民	A		
										1

主要事業名・事業概要		●工程（年度別事業計画）					取組状況 （進捗・達成状況、成果、今後の方針）	部局	委員意見	
番号	数値目標	数値目標（上段：目標、下段：実績）				達成度			評価	特記事項
		単位	H19	H20	H21					
630	「とくしまスポーツSHOWデー」でのスポーツイベント等助成数 〈H18〉－ → 〈H22〉20件	件	☺			20	1	県民	A	（目標を達成しているためA評価とした）
			10	19	20	21				
●市町村等が設立する「総合型地域スポーツクラブ」の育成を支援するとともに、スポーツを活用した健康づくりの体制を整備し、みんなが楽しめる生涯スポーツの普及を図ります。		推進	→	→	→		1	県民	B	〔数値目標の総合型地域スポーツクラブの設立数、健康づくり実践プログラムの作成・モデル事業の実施は、いずれも達成しており、みんなが楽しめる生涯スポーツの普及に一定の役割を果たしていることから、B評価とした。〕
631	総合型地域スポーツクラブの設立数 〈H17〉13クラブ → 〈H22〉28クラブ	クラブ	〈H22〉26	〈H22〉26	〈H22〉26	〈H22〉28	1	県民	A	（目標を達成しているためA評価とした）
			21	25	28	29				
632	健康づくり実践プログラムの作成・モデル事業の実施 〈H21〉～実施		☺	☺	実施	実施	1	県民	A	（目標を達成しているためA評価とした）
			－	－	実施	実施				
●健康や環境にも好影響をもたらす自転車を活用したサイクリングスポーツの普及を図る「とくしま自転車王国創造プロジェクト」を推進し、余暇にスポーツを楽しむきっかけを創出します。		推進					→	県民	B	〔数値目標（公式サイクリングコース数 目標20 実績20）は達成しているが、ハード面の整備がこれからの課題ということでB評価とした。〕
633	公式サイクリングコース数 〈H21〉12コース → 〈H22〉20コース	コース	☺	☺	☺	20	1	県民	A	（目標を達成しているためA評価とした）
			－	－	12	20				

主要事業名・事業概要		●工程（年度別事業計画）				取組状況 (進捗・達成状況、成果、今後の方針)	部局	委員意見				
番号	数値目標	数値目標（上段：目標、下段：実績）						達成度	評価	特記事項		
		単位	H19	H20	H21						H22	
4 生涯スポーツの拠点づくり ●生涯スポーツの拠点づくりのため、県南等における運動公園の整備を推進します。			推進	→	→	→	県土	B				
634	南部健康運動公園の整備 (テニスコートエリア) 〈H17〉整備中 → 〈H22〉テニスコートエリアの整備完了					整備完了				2	B	(目標をほぼ達成しているのでB評価とした)
	多目的広場 完成	管理棟完成	テニスコート4面 整備	整備中								
635	橘港小勝・後戸地区の緑地整備 (スポーツ・レクリエーション振興ゾーン) 〈H17〉→ → 〈H22〉整備中					整備中	1	A	(目標を達成しているのでA評価とした)			
	—	公共用地の 造成中	造成・設計	整備中								